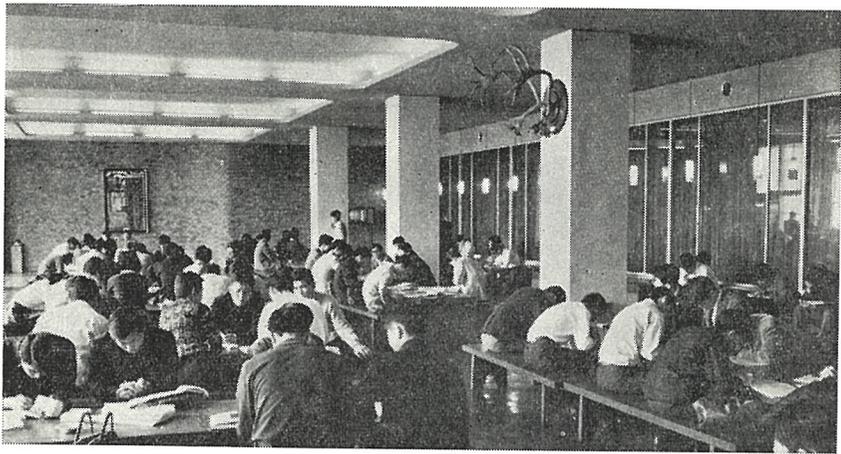


座談会 私学の当面する諸問題



出席者/住 谷 悦 治 (同志社 総 長)
秦 孝 治 郎 (同志社 理 事 長)
星 名 秦 (同志社 大 学 々 長)
湯 浅 八 郎 (国際基督教大学名誉総長)
司 会/生 島 吉 造 (同志社本部庶務部長)

ひとつことではない早稲田問題

生島 今日のご出席いただきどうもありがとうございます。最初に早稲田の問題をとりあげたいと存じます。この問題はひとつことじゃないように思われるんですけども、そんな点からお始め願って、同志社の反省なり同志社大学の教育なりをお話しねがったらどうかと思っております……。

住谷 大問題ですね。同じような問題がやっぱり全国各大学にあるんじゃないかと思うんです。同志社にももちろんあります。今度の早稲田の授業料の問題はですね、大幅に上げすぎなんじゃないかと思われませんか。それが特に学生を強く刺激したんじゃないか。そればかりでなしにマスプロダクションとかマスメッセージョンという問題、学生会館の問題、教学と財政の問題などが重なりあっているのではないかと思えます。

生島 早稲田の問題というのは学費だけの問題じゃなくて根本的な大学自体の問題ですね。今おっしゃったのは……。

住谷 教育の問題とくに私学の問題には歴史的なものがあるわけです。明治維新以来、東

京大学をはじめ官学、あるいは国立を中心として、私学というものは全くその補足的な意味で生きたわけです。私学の教育というものが自主的自立的にできたということについて明治政府は非常に軽く見ているところがある。殊に早稲田大学は伊藤と大隈の関係で大変圧迫されたということがあり、そういうことから野党精神を持つという早稲田の特徴が出てきたわけです。だから私学としては国立や官立に対して特質を出した学校として、立学の精神を持つ学校としてやっていくことに一つの生命がある。私学にそういう特徴を見出すということの必要さ及びその困難さというものが私学には明治以来与えられている。

湯浅 私は、早稲田の問題を取り上げるときに、第一に言いたいことは、大浜総長の苦心をわれわれ私学に関係する者としては十分にくむべきだと思えます。外から無責任に何だあんなこととか、ああもせえこうもせえ、などというような批評は幾らでもできるけれども、大浜総長が複雑困難な問題に対してどれほど苦心しておられるかということについては私学の関係者として第一に理解と同情を

持つべきだ、ということをお願いしたいと思います。

生島 理事長、その点について……。

秦 ちょうど騒動が始まってから二週間くらい後に東京へ行って、大浜総長を中心にしていろいろ研究してみたいのですが、それはもう実にお気の毒という一言に尽きると思いますが。ところが今日の新聞、雑誌等を見てもそういうような同情のことはを社会はかけないですね。一昨年は同社が授業料問題をかたづけ、昨年は慶応があとまで持っていた。今年はまだ早稲田がやっておる。こういう場合に私学のあり方をお互いがどう受取つたらいいのか、どう反省したらいいのか、どう收拾したらいいのか、私立大学の間で研究の必要がありますね。

湯浅 住谷総長が早稲田の問題はひとつとでないといわれましたが、その通りだと思えます。三つの理由があると思えます。私学には共通の責任がある、公共性があつて日本の青年の教育のために共通の使命をおびて存在している学園なんだ。何も早稲田だから別だとか同社だから特殊だといふべきものではない。共通の責任を持っている同僚として早

稲田の問題は身近に感じる。第二は早稲田の問題の内容からいえばこれもまた全く同じものがあるんでね。その烈しさにおいて、あるいは深刻さにおいて、あるいはまた取り上げ方においていろいろと程度は変わるけれども内容は同じなんだ。例えば財政の問題にしても教育不在の問題にしてもみな共通の問題なんだ。決して早稲田だけとは言えない。早稲田のなやみはまた同社社のなやみでもある。第三にこの問題は表面的には授業料値上げに対する反対とか学生の正義感の燃え上がりとかいろいろあるけれども、その背後に大きな力があり、権力闘争を目的とした運動であるという点において共通の問題であると思う。こうした大きな立場からこの問題を考えなければならぬ。それを考えますとやはり同社社があるべき姿というものは他の私学にも共通するものだし、早稲田で望ましいことはまた同社社でも望ましいと言えますね。私はそういうふうなこの問題を私なりに解釈しているわけです。

同社社の問題

生島 つぎに私立大学とくに同社社大学のい



住谷悦治氏

ちばんの問題点から一つ。

住谷 重要な問題として、学校当局と学生との間の不信の問題がある。学生は先生および学校当局を信頼しないということがあると思いますね。

生島 今おっしゃった相互に信頼しないというのはやはりマスプロ教育に起因しているということですか。

住谷 日本の現在の思想問題一般が学生運動などに集中していると私は思うんです。だから信頼しないというのは学内のことだけれども、同時に先頭に立っているいわゆる学生生活動家というものが自らを全体を代表しているというように主張しているんですが、あの活動家の問題はやっぱり社会全体の政治的な問題と結びついている。日本の政治的情勢とか社会的な情勢というものが学生運動という形

をとって現われていると考えている。

湯浅 私はね、マスプロの弊害を強調するというのは非常に皮相な考え方だと思えます。よって来ているところは戦後の偏向教育の結果だと思えます。マスプロ自体に問題があるけれども、マスプロだからこんなふうになっているというんじゃないで、今まで過去二十年間の教育のあり方が本当の原因だと思えます。ただ、現象面だけをつかまえて、マスプロに責任を転化するのはどうでしょう。今日のようにマスプロを教育すべき時に昔の寺小屋のようなことを望むのはノスタルジックなことですよ。マスの時代には、マスのテクニクを考えていかなければいけない。精神は同じだけれどもテクニクは変らなければならぬ。

秦 今日の教育の問題を私立大学の、しかもマスプロの教育だけをとり上げて議論するのは片手落ちです。偏向教育の弊害が大学のマスプロ教育の中で、露呈したという形です。

教育には金がかかる

生島 以前、理事長は私立大学の教育と経営の問題について、経営より教育が先行すると

おっしゃったが、教育の問題をどうお考えですか。

秦 ジャーナリズムの中には教育の場である学校の問題を取り上げるのに財政面だけを取り上げるものがある。それからもう一つ「大学の危機」という言葉はあまり使うべきじゃないと思う。というのは、私まだ危機は来ないと思うからです。これが誤解されますと今日の教育はもうメチャメチャだということのような誤解を受ける。現在の私立学園というのはなるほどそれぞれ皆特色があったり、それぞれ違った悩みを持ってますけれども、全部が全部財政的に行きつまるということはないと思う。それは物価指数から言っても、全体の貨幣価値から見ましても、なるほど昔とは非常に格差があります。学費の値上がりについても……。と同時にまた全体の国家の収支においても生活の水準においてもそれは非常な発達、伸び方してますから、それを分析しますと、私は今日の私立学園の決められておる収入源というものが、あるいは学費というものはそう現在の生活に耐えられないというものではないと。ただ日本教育学会の調査によると年間の収入の九十万円以内の人が

国立、公立なんかでは六〇%以上を占めておるし、私立大学では五〇%くらいが、九十万円以内の収入の中から自分の子弟を通わせておる、ということを書いております。しかし私は現在の私学の徴収しておるものは決して負担としては軽いとは言いませんけれども、そう重いものではないというふうに考えておる。だいたい昭和四十一年の私立大学の納付金を調べてみますと、文科系で授業料、入学金、施設拡充費、維持費その他合計しますと十五万二千三百五十九円という数字になります。理科系では二十一万九千百十六円。医歯系ではだいぶ大きく五十九万五千九十二円です。全平均しましても十九万八千二百一十四円です。

生島 十九万円から入学金の五万円引くと十四万円ですか。

秦 ええ、入学金の平均が四万七千円ですから十五万円でしょう。だから初年度は十九万円であとが十五万づつですから、そうすると十五万が三年で四十五万、それからあと約二十万ですからね。だから六十五万ほど四年間にはいるわけです。そういう形から言っても今日の民度というか生活の水準等からこれは

不可能な数じゃないと考えておりますがね。

生島 湯浅先生、前から、国立大学の学費と私立大学の学費を比較して国立大学が一人当り非常に多い予算でやっているのに私立大学は少ない学費でやってしかも教育内容は同じように高めていかなければならないという御意見でしたが。

湯浅 これは日本の社会の教育費に対する理解と責任感から出発している問題だと思えます。そうでなければ授業料が高いとか安いとかというような現象面だけをつかまえても何の意味もないと思う。五万円が高い場合もあるし二十万円が安い場合もあり得る。高い安いということは支払う目的に対して受け取るものがそれに値しない場合にいふべきなんですね。今の日本ではただ出しにくいという感じを、あるいはそういう現実を授業料高しといつて



秦 孝治 郎 氏

いる。日本の社会には教育を慈善事業と見ているかのような社会通念がある。教育は安いはずだとネ。ところが教育くらい高価につくものはない。本当に徹底してやろうとすればするほど経費はかさむことになる。いくらあってもなお足りないのが教育の本質なんですから、それを理解しないで日本の社会は何でも安ければ大変いいと。だから授業料問題に対する社会の理解の不合理性というものから出発しなければ問題は解決しない。

国立大学が非常に安いじゃないか、一万二千円で済むのに私学に行くとなん万円かかる、二十万円かかるという。数字を比較すればそこに大きな開きがある。けれどもその国立大学に行っている学生の一人当りの経費三十六万円とか四十万円というその経費は誰が払っているかといえ国民全部が負担している税金から支払われる。その上に子弟を国立大学に送ればさらに一万二千円を出す。しかし一万二千円では教育はできない。あとは国民の協力によって必要なものが補給される。ところが私学に行きますとね、国立大学の学生のために要する経費を負担しながら、その上にさらに十万円なり二十万円のものも負担し



湯浅八郎氏

なければならぬ。なるほど不合理です。しかし教育そのものは本当に高価なものなんで。だからやはり私学への国庫補助は最も合理的な対策の一つだといえます。ただ日本の場合には政府の補助があるとそこに望ましからぬ制約や統制とかあるいは干渉とかいうことがある。これが一つの課題だと思う。必要な資源を公正に、国家資源を国家的教育ために公正に分配するという原則の方を主にして、統制は望ましからぬということで世論を喚起すればよい。国庫補助を問題だと言ってさけるよりも国庫補助は受ける。しかし同時に望しからぬ干渉はやめてくれ、ということをお私学は主張すべきです。

住谷 その点私学に補助すべきだということの理論的根拠というのが教育基本法に出てくるわけです。というのは教育基本法を見ます

と教育の基本は公共性と自主性にあるということをおいっている。公共性と自主性を強調しているということは私学と国公立とは教育の基本において変りのない教育をしろということである。そこをとらえれば私学の方では教育基本法で国立と同じことをやるんだから、国立と差別されるはずはない、当然私学は補助を要求して良い。教育基本法自体に授助すべきだという方針が出てくる、と思います。

湯浅 そういう根本精神はよみとれますね。

住谷 ただ国立でも私学でも教育の根本方針は同じだということになってしまうと、教育の普遍性を主張するあまり、われわれのように私学にある人はその私学の特徴をどこに出すか。

湯浅 使命をね、そうそう。

住谷 やっぱり私学の立学の間精神ですかね、一般性の中にそれを踏まえて私学の特性を出す。そういう点で同志社がうらやましいと人はいうんですよ。というのは同志社の教育の立学の間精神とか建学の精神が非常にはつきりしている。慶応が独立自尊、早稲田はもちろん野党の間精神というけれども独立自尊、野党の間精神といったって、これはもう常識にな

っていて、特に言わなくてはならんということとは無くなっている。その点でキリスト教の学校、そういう特性の上に主張する根拠を持っている学校はうらやましいという話が聞かれる。

インストラクションと

エジュケーション

湯浅 公共性とか、国家に対する責任は教育する者にあるけれども、教育は決して制度ではできない。そこに人があり精神がなければ教育というものは本当はできない。インストラクションはできてはね、エジュケーションはできない。私学の特徴はインストラクションの点においては官公立と共通の物を持っているが、エジュケーションの点においてはかなり特色があるはずである。

住谷 先生のおっしゃったインストラクションとエジュケーション。非常にはつきりしていいと思う。私学は今の教育基本法によってインストラクションで一般化されておりませんから、私学はどの私学でも、国立と変りがない。そして科目も法律、経済、経営、商学みな同じことをやっている。先生が何とい

いますか、熱意を持たずエジュケーションという問題は無視されても大学は成り立っている。そこに教育基本法の一つの弱点があると思います。

湯浅 法律というものはそうとでも言わなければ特殊性を認めるわけにはいかない。いちはん普遍妥当なものだけをうたっているんだから。それを生かすものはやっぱり實際事に当る教育者、学校当局であり、教授である。

秦 湯浅先生のおっしゃるそれと関連して、新聞の史上最大のマンモス卒業式には一万四千八百十二名が巣立ったと書いておることを見ますとね。今のインストラクションの問題では一応いっているんですね。それからこれは非常な問題に成功したということか、その目的を達したかということになりますとこれは非常に問題が難しい。やはり私は世間の人々が一般に今日の教育ではいけない、だからやっぱりそこに特徴のある特殊な教育のためには敢えて学費が多くなっても辞さないという人もあると思う。

星名 どうも遅くなりました。

湯浅 日本では何か学歴を持っておらないと

(星名学長出席)

就職できない、就職してもいつまでも制約を受けるというので、とにかく大学卒業という資格を求めて来る。教養とか自己を磨こうというよりも就職の方便として来るのが大多数です。しかしそれが現実ならやっぱり大学としてはマスを考えなきゃ。私とこはエリートだけを相手にしようなんていうところも現実にありますよ。だからそれができる学校はやるべきです。ICUはそれをやろうとしてあらゆる努力苦心をしているわけです。一例ですけれどもね。どの学校もICU(国際基督教大学)みたいにやれるわけではなし、やらねばならないことはない。日本大学みたいに一万でも二万でも卒業生を出すのも社会の要求にあっているんですよ。

勉学不在の学生？

星名 実際、怒濤のように押し寄せてくる若い人たち、どう教育していいのかわからない。ですから、実社会の方で大学卒業生というものを優先して考える。そしてこれらにいわゆる経済の発展とか、それに伴うひずみを是正していく役割りを期待しておるので、沢山の大学卒をとりましますけれども、教育のあ

り方といますか教育生活といますか、それが期待を裏切ったような状態です。

どうしてかという、やはり学問の深さが深くなり、領域も広がって、いわゆる専門の重なりあう部門が非常にできてくるから、どうしても学科が分化してくる傾向があ



る。学部も増えてくる面がでてくる。文化の進みでそうした傾向に行くんでしようが、その人間関係ということになりますとね、一般教育の重要性ということが非常に言われておるんですけども、私は根本的にはしつげが足りないと思う。小さい頃からの家庭なり学校なりのね。それでだんだんきびしくしつげて、上の学校に行くほど今度は自分が自分をしつげるといふ習慣をつけさせて、大学を卒業する時には自分で自分を律して行くような能力をもち自分の意見を持って、自分で考えていくことのできるような人を作りだしたらいいのじゃないか。大学で一生懸命になって押し付けようとしてしましてもなかなか大人ですからむづかしい。

生島 日本では大学へ行くと最高学府へ行くんだから、両親も社会も一人前に大学生を見ていくんじゃないかと思いますがね。そういうような点で学生に対する認識が大分違うと思うんですが。

星名 出世主義というか進学第一主義でしょう。幼稚園から良い小学校へ。小学校で良い中学校へ。みないい大学へ入れるようにといふ。勉強勉強と進学第一主義でやってきて、



生島吉造氏

そして新聞に出ておりましたように例の東京大学や京都大学で留年者が沢山出てきた。その原因は大学へ入ってホツとして油断して遊んでしまう。ところが大学では人間形成という面でもうんとこき勉強しなきゃならないのに逆に遊んでいる。これをどうして遊ばさんようにするかというのがわれわれ大学の先生の任務のように言われますけれども、それは確かに任務なんです。その前に私は人情だと思えます。やれやれ大学に入ってこれで何とかすれば卒業でき、卒業すればしかるべき所へ就職できるという、もう切符を買ったようなもんです。どうしたって気楽になって、本当はもつと自分を磨かなきゃいけないんだけれどもそれを忘れる。進学主義を一掃しなれば、ゆとりのある、心に余裕のある学生は入ってこないんじゃないだろうか。

この間、第二語学の先生に聞いたんですけども、語学は七十人くらいの小クラスにして、わざわざいわれるドリルと称してハードトレーニングをやる形をとっておるわけです。それにね、学生諸君がトレーニングを受けに来ないんだそうです。四年間に単位を取れさえすればよい。四年目になれば何とか押し出してもらえる。それだからあの語学の学生たちが落ちるのはドリルの結果落ちるんじゃないくて、自分で捨てておるんだと思う。それだからマスプロ教育はどうだこうだと言いますが、しかし結局自分で勉強しようという人でないとせっかくハードトレーニングをして実力を上げてやろうとしましても、教室に出てこない。トレーニングのしようもないという状態なんです。そういう意味で私は入学試験制度というものを根本的に考え直さなくちゃならない。だから私は同志社では幼稚園から大学まで試験なしで……。

湯浅 そういう形式主義とか大学さえ出ればいいという物の判断、そういうことでは、本当の人間とは何ぞやとか、人生の意義と価値というものに触れないで教育をやろうとしていることになる。日本の教育の根本的な欠陥

がこのへんにあるんじゃないですか。

秦 教育不在と言われるますが、学生は勉強不在の人もありますね。これではかなり遠方の住居地から相当な月謝を出してくるよりも自習自学の方がためになるかも知れませんね。これを根本的にどういう風にして矯正していくか、どういう風にして改革していくかということには教育に関係ある者の大きな反省材料になる。

住谷 その点で私は二つ問題が頭にひっかかっているんです。湯浅先生のおっしゃったマスプロにはマスプロの一つの方式がある、あるいはそれに準じなくちゃならんと。それにはいろいろの方法があるんでしょね。非常に困難だけれどもそういうことはあると思います。それからもう一つ、個人的に学生に影響力を持つ教授が必要だと思ふ。単に専門科目をやるというだけではない、たとえ専門科目をやるとしても学生に対して一つの影響力を持つというようなことが必要だと思ふ。それは教育する側の問題ですね。大学自体が人生の重要な一つの部分である、重要な人生であるということをお覚させることが必要だと思ふ。

秦 学者というものはドライな科学のエッセンスを切り売りする者ではなくて、やっぱりその人の人格というものを通してその人のあたたかみとか、その人の個性とか、そういうものを通して感化を与える教育をするのが、教育者だと、あるいは学者だと私は思っているんですよ。したがって今われわれが同志社で学んだ記憶を見ても、例えば英文法であれば飯塚先生というものがすぐ頭に浮かんできて、英文法の *would, should* の使いわけを見る時にすぐ飯塚先生の顔が見えるわけなんです。それから漢文であると白楽天の詩を多少思い起すと門田さんの顔が出てきます。それから国文法あるいは国文学だと三輪源造さんが出てくるということになりますから。

湯浅 低学年では先生の人格というのが中心になるでしょうが、大学においては先生の学問、内容のある学問を持っている先生が学生に影響を与えらると思ふ。その影響というのは学問の内容ではない。内容というのは学問の本質から言つて明日はそれが書き変えられるかも知れない。問題はその先生の生活態度です。学問に対する研究態度、そしてその

峻厳なしかも謙虚なそして常に自分をむなしくして真理を求めるといふ教授の精神が学生に本当に伝わつて弟子が育つので、これが本当の教育になるんですよ。

星名 先生たちが講義をされます時に、やっぱり自分のご専門に対して真剣なアプローチをしておられる方は学生にも人間的にいい影響を与える。だから機械の講義をしておりますも人間を作るといふことには影響を与える。

秦 人間のインフルエンス、感化といふ点かそういう点がなけりやエジューションにならぬですわね。

ユニバーシティ・マネージャー

生島 湯浅先生のおっしゃったように教育というのは非常に金がかかるんですが、それを誰が負担するかということが問題だと思ふ。今までの学校における財政的な負担が安易に学生の負担にならないように学校でも苦心しておるわけですが、その点について理事長……。

秦 現在の全同志社の姿、構造と言いますか規模と言いますか、これでいいかどうかと言

いますとこれではいけないと思います。それかと言って時流に乗って学生の数を多くするというのは能事じゃない。ただ難しい問題は教育第一義であるが、同時にそれに裏付けされる経営が成り立つかどうかという問題と、それから先ほど湯浅先生のおっしゃったインストラクションだけで能事おわれりというのではなくて、本当のエジュケーションができるもつと言うなら同志社は立学の精神である新島先生の衣鉢を仰いで果してこれが精神教育に加えていけるかどうかということを考えますと、私は少なくとも拡充ということを一応使うんですが、学生をもしふやすとするならば同時に充実するということの二本立でいて、そして焦点がどこで会うかということを考えてみたい。けれども、あるいは教学の進展に対する考え方、あるいは土地あるいは設備建築物その他の充実とか、あるいはまた教授陣その他の人材をどう充実していくかといういろいろな角度から見て、単に一同志社というものでなく、もつと深い、もつと広い、もつと深刻な学校教育のあり方を研究する必要がある。御承知の通りアメリカでは学校経営、学校教育に対する専門の学者がありま

す。日本ではそれを専門にやっておる人はない。私は数年前アメリカに行って専門家に二、三教えを受けたんですが、今後は同志社でも副業でなくて専門的にそういうことだけを考えるコンサルタントが必要じゃないかと思えます。

生島 昔シティ・マネジャー・プランというのがあったんですが、ユニバーシティ・マネジャー・プランというのがあつても……。

湯浅 これだけ大きな人と財政を動かすのに素人だけでやっているというのはそれは驚くべき変態ですよ、日本は。教育に対してもそうですよ。自分たちの個々の学問については一応考えているけれども全体の教育というものに對する本当の意味での責任あるセンターというものはどの大学にもないんです。しかも戦後は教授会万能主義で自分の専門の小さい部分をやっていて先生たちがあたかも世界の権威であるかのように思つてやっている。経験もなければ知識もない者がこれだけ大きな財政を、これだけ大きな団体を動かしているでしょう。驚くべきことですよ。

秦 私学は一つの有機体です。これは官学と全然違う。それぞれに蜂の巣の一つの穴をや

っている。けれども蜂の巣全体がいかにあるべきかを考えとるものは本当にはないんです。理事長はあるし総長もあるし学長もあり、校長その他もあるんですけれども、それぞれえられている毎日の仕事をやっとするだけで、もつと高度な、相当長期的な構想、計画というものはやっぱりコンサルタントといいますが、センターといいますがそういうものが必要なんです。

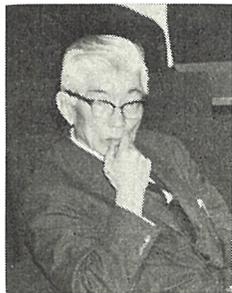
住谷 だからいま教育の一つの転機とすれば教授会万能主義というのに対して教育経営コンサルタントですか、そういうものが一つ考察されることが教育、大学教育の一つの転機になるんじゃないか。

秦 星名学長が就任されてからそう日がないから一番フレッシュな感じが与えられますが大学経営の問題について……。

星名 実を言いますと授業料を上られない、学生は今のままでは増せない、国庫補助がない、という三すくみをどう打開していくかということ。同志社教育をどう完遂していくかという問題になつてくると、やはり一番先に考えられることは、社会が要請しているといいますが、学生が希望する部門を現在の先生

方の持つておられる能力の範囲で拡大していく、そうして学生の希望しておる学問がやれるような場を作っていく。その場合に先生方も職員も一緒になってそういう方向を甲論乙駁しようだあだどやりあわんで、同じ方法を見定めて、助けあっていく以外に方法はないだらうと思う。それで一般論としては学生の希望する方向、というと法経商といったような社会科学部門と工のような科学技術といえますか、そっちの方面です。その門戸あるいは場を広くする。それに今おられる先生方で直接関係がないようであってもそれに参加していただいて、希望の多い方面に沢山の学生さんたちを集める。今のところ授業料をこれ以上あげるとは出来ませんし、合理的に学生を増やす。

案 合理的にね。



星 名 泰 氏

星名 合理的に先生をふやして学生数を確保するということしか今のところでできないんじゃないかと思う。

同志社の特徴を生かす

湯浅 僕は同志社は同志社が持っている他の大学にはない良い物を活用してないと思いますよ。昔と同じようなことをやるうとしてみると設備が足りんの、マスプロで困るの、校庭が狭いのいつているけど、本当の意味で教育機関として最も大事なものを同志社は持っているんですよ。教育に対する根本理解というのか、理想というものをね。世間は決して同志社のようなあんなつまらん学校へ誰が行くかと言っているんじゃないかと、同志社だから行こうというのがあるんですよ。これはかけがえない同志社の力ですよ。それを十分生かしてないと思う。それを生かしていない一つの証拠は同志社が他の大学と同じようなことをやっている。

入学試験一つとってみてもそうです。実際入学試験で何をやっているんですか。入学試験の成績と学校に入った後に何のコーディネーションがあるんですか。それよりも高等学

校三年間の成績を参考にするのがいちばんよい。高等学校の上位十人まで無試験で入れる。国立大学に行けば安いけれども、これだけの負担をしても十万が二十万負担をしてもいいから教育をたのむという家庭は日本には五十万はあります。五十万の人が高い月謝を払っているんだから。同志社なら、こういうところ試験地獄の解消に役立つでしょうし、日本の教育制度の最大の欠陥とも言われる入学試験制度を改革する一つの契機にもなるう、成績は優秀人物は有望でしかも進んで同志社を志望する者を無試験推薦制度で入学させる方針は研究に値することでしょう。同志社はよく考えて、その代りに必要な教育経費をとればいいんです。始めから無試験で入れるのなら十五万でも二十万でも、という人はいますよ。必要な経費を負担しうる家庭を排斥する理由はすこしもないはずだ、それだけの実力を持つている家庭の子女こそ大いに教育する必要があるので。何も貧乏人だけが教育に値するんじゃないんでね。何だか貧乏人さえ教育すればいい、金持ちの子供はほっといたらいいようなことを言っているが金持

ちの子供こそおおいに教育してやらなければいけないと思う。金持ちの子供もまた教育に値するところ言った方が正確かもしれないけれど。無試験で入学させる。そのかわり入ったら思いきり訓練をする。入ってぐずぐずしている者はどんどん落第させる。本当の意味で教育者らしく教育するという方針を確立してやったらよい。

とにかく私が言いたいことは本当に同志社がこの危機を乗り越えようというなら授業料を上げるんだとか、校地を増やすんだとか、こういう新しい学部を設けたら学生がくるだろうとか、そんな姑息な救済の策を練るのではなくて、抜本的に日本の教育制度が一番必要としている本筋をここで打ち立てることが第一です。

星名 湯浅先生のおっしゃったその考え方もっていくのにまだいい足らんわけなんです。私は人文関係の先生というのは人間学であって、法経商は社会の現象科学というか学問である。それから工ですけど物を作る、物を相手にする学問であって、その新島精神同志社精神といったような面ですね、人間のあり方ということ、それがよく一般教育の

人間形成といわれるが、そのにない手というのは一体誰なのかというと神学部と文学部とです。神学部と文学部は人間形成という点で責任を持って、いわゆる一般教育を担当していただく、そして同志社精神を持った人たちが法経商工といったようなソーシャル・ニードにマッチしたところに進んでもその人たちに對する同志社教育というものはできるんじゃないかと思うんです。湯浅先生、先生の使いわけを考えておるんですが、どうでしょうか。

湯浅 多少意見はあります。それはたとえ専門が機械工学であろうとも、それは専門における機械工学なんでね、倫理学の先生が倫理学を講義されると同じインストラクションの面において専門的とか学者という立場でおやりになる。その学者には教育的な責任がある。それはその人の専門に対する態度、学問に対する態度、そしてその態度からくる学生への影響というものが教育効果を上げるんです。何をやるうと内容じゃない。だから最も単純化した要求は、専門においては一応十分な内容を持つてる先生、学問的にも専門の知識においても。と同時にその人はやっぱり

同志社の教育に共鳴した教育者としての自覚と使命感を持つておくべきです。

秦 おこがましい話ですがやっぱり教職員の再教育……。

湯浅 そこに問題がある。建物より何よりも先生の教育に對する理解と使命感ですよ。

星名 それはその通りなんです。だから専門の先生が一般教育を兼ね、いわゆる経験が深く、専門の学識が高い、そういう先生が一般教育を担当するということが大切なんです。

秦 先生のいわれることは湯浅先生のおっしゃる、私たちの言うたそれとの内訳をおっしゃったんですが、言うならばやっぱり人間関係にもう少しウェイトをおくように総長自ら陣頭に立つて進めないと、他の大学の悪口を言うてみたり、立学精神の確立しない大学じゃございませんと言うてみたところで、同じような物になってしまふ。墮落してしまふ。

星名 だから総長が同志社学園の、同志社教育の総元締めになって頂かなければ、私、同志社はよくならないと思います。

生島 今日はどうも有難うございました。